



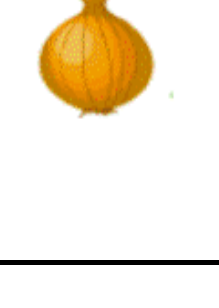
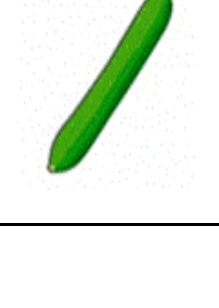
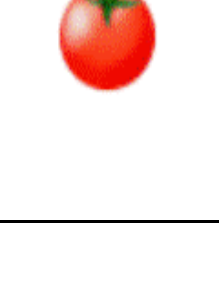

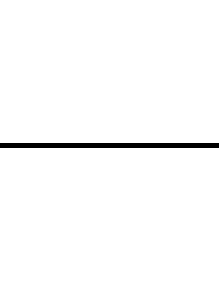
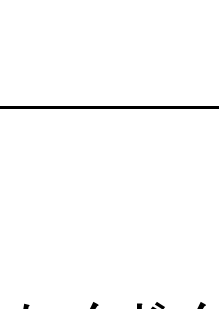





野菜の需給・価格動向レポート(平成27年10月13日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

| 種 類 | | (参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格 | 9 月の価格情報 | | | 1 0 月 | 生育及び価格の10月下旬までの見通し |
|------------------|--|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------|---------------|---------|--|
| | | | (参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格 | | | | |
| | | | 指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額 | 上旬 | 中旬 | | |
| 葉 茎 菜 類 |  | 74. 19 | 105 (142%) | 128 (173%) | 134 (181%) | 74. 19 | ・群馬産は、9月中旬までの曇雨天による日照不足や低温の影響で、結球進度が遅く小玉傾向となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・千葉産は、9月中旬までの天候不順の影響により、生育が停滞気味で、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は最近の天候に恵まれていることもあり、平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が平年並みと見込まれるものの、群馬産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を大幅に上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。 |
| | | 88. 91 | 106 (119%) | 129 (145%) | 140 (157%) | 88. 91 | |
| |  (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ) | 273. 33 | 330 (121%) | 401 (147%) | 337 (123%) | 240. 04 | ・青森産は、病害の発生も特段なく生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・北海道産は、生育は順調であることから、前倒し出荷により、現在平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。 ・秋田産は、作付面積の増加に加え、太りも良く生育は順調なことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・青森産及び北海道産の出荷が平年並みと見込まれ、秋田産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。 |
| | | 487. 13 | 464 (95%) | 607 (125%) | 696 (143%) | 467. 01 | |
| |  | 78. 06 | 111 (142%) | 140 (179%) | 100 (128%) | 56. 81 | ・長野産は、9月中旬までの天候不順の影響で、生育が停滞気味であったが、現在回復傾向で特段目立った病害も見られないことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・茨城産は、9月中旬までの天候不順の影響で定植や生育が遅れていることもあり、平年より少なめの出荷の見込み。 ・長野産の出荷が平年並みと見込まれるものの、茨城産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。 |
| | | 88. 72 | 113 (127%) | 149 (168%) | 99 (112%) | 69. 44 | |
| |  | 583. 95 | 813 (139%) | 873 (149%) | 711 (122%) | 385. 11 | ・群馬産及び栃木産は、9月中旬までの天候不順の影響で生育の遅れがあったが、現在は回復し、特段目立った病害もなく生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・茨城産は、最近の天候に恵まれていることから、特段目立った病害もなく生育は順調で、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・群馬産及び栃木産の出荷が平年並みと見込まれるものの、茨城産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、価格は平年に近づくものの、現在平年を大幅に上回っていることから、引き続き平年を上回って推移する見込み。 |
| | | 670. 86 | 775 (116%) | 895 (133%) | 777 (116%) | 461. 74 | |
| |  | 158. 27 | 177 (112%) | 266 (168%) | 257 (162%) | 158. 27 | ・茨城産は、9月中旬までの天候不順の影響で定植や生育の遅れと大雨による冠水の影響もあり、現在平年よりやや少なめの出荷であるが、今後は大雨後に定植したものの出荷が見込まれるため、平年並みの出荷の見込み。 ・長野産は、9月中旬までの天候不順の影響で生育が停滞していることに加え、病害の発生も見られることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・茨城産の出荷が平年並みと見込まれるものの、長野産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年に近づくものの引き続き平年を上回って推移する見込み。 |
| | | 152. 57 | 186 (122%) | 279 (183%) | 285 (187%) | 152. 57 | |
| |  | 76. 15 | 92 (121%) | 83 (109%) | 76 (100%) | 76. 15 | ・北海道産は、生育期に天候に恵まれ順調な生育となったことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・北海道産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年並みの価格は、平年を下回って推移する見込み。 |
| | | 76. 15 | 98 (129%) | 88 (116%) | 77 (101%) | 76. 15 | |
| 果 菜 類 |  | 210. 69 | 411 (195%) | 366 (174%) | 297 (141%) | 262. 75 | ・埼玉産は、9月中旬までの天候不順の影響は回復傾向であるものの、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、最近の天候の回復もあり、生育は概ね順調で、今後は平年並みの出荷の見込み。 ・群馬産は、9月中旬までの天候不順の影響により、病害も見られ生育はやや不良であるため、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・福島産は、9月中旬までの天候不順の影響は多少残っており、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は最近の天候に恵まれていることから、平年並みの出荷の見込み。 ・群馬産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、埼玉産及び福島産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。 |
| | | 221. 71 | 433 (195%) | 416 (188%) | 301 (136%) | 284. 72 | |
| |  | 229. 51 | 424 (185%) | 378 (165%) | 387 (169%) | 315. 83 | ・千葉産は、高温による花落ちと9月中旬までの天候不順で、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、最近の天候に恵まれていることもあり、今後は平年並みの出荷の見込み。 ・茨城産は、9月中旬までの天候不順の影響で草勢が弱いこともあり、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・福島産は、9月中旬までの天候不順の影響から回復傾向で、目立った病害もなく生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・青森産は、8月上中旬の高温・干ばつによる花落ちの影響から回復し、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産、福島産及び青森産の出荷が平年並みと見込まれるものの、茨城産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は平年に近づくものの、現在平年を大幅に上回っているため、引き続き平年を上回って推移する見込み。 |
| | | 271. 33 | 395 (146%) | 398 (147%) | 393 (145%) | 337. 88 | |
| |  | 209. 55 | 377 (180%) | 392 (187%) | 395 (188%) | 301. 00 | ・高知産は、病害の発生もなく生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・栃木産は、9月中旬までの天候不順の影響は回復傾向であるものの、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・群馬産は、9月中旬までの天候不順の影響は回復傾向であり、特段目立た病害もなく生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・栃木産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、高知産及び群馬産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。 |
| | | 221. 72 | 297 (134%) | 355 (160%) | 374 (169%) | 263. 21 | |
| |  | 263. 58 | 418 (159%) | 521 (198%) | 457 (173%) | 263. 58 | ・茨城産は、9月中旬までの天候不順の影響は回復傾向であるものの、現在は平年よりやや少なめの出荷となっているが、越冬ものの生育は順調であることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 ・岩手産は、最近の夜温の低下の影響による品質の低下に伴い、生育はやや不良であることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・茨城産の出荷が平年並みと見込まれるものの、岩手産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を大幅に上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。 |
| | | 282. 16 | 400 (142%) | 503 (178%) | 459 (163%) | 282. 16 | |
| 根 菜 類 |  | 94. 60 | 106 (112%) | 105 (111%) | 105 (111%) | 67. 55 | ・北海道産は、生育は順調で、現在は平年よりやや多めの出荷となっているが、これまでの前倒し出荷の影響で切り上げりが早まる見込みであることから、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・青森産は、特段目立った病害もなく、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・後続の千葉産は、一部で天候不順の影響で病害の発生が見られていることに加え、低温により生育に遅れがみられることから、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は最近の天候に恵まれていることもあり、平年並みの出荷の見込み。 ・青森産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれるものの、北海道産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。 |
| | | 100. 39 | 102 (102%) | 105 (105%) | 103 (103%) | 76. 48 | |
| |  | 123. 08 | 144 (117%) | 150 (122%) | 131 (106%) | 123. 08 | ・北海道産は、干ばつの影響で小ぶりであったが、最近の適度な降雨により肥大が促進されたことから生育は順調で、やや前倒し出荷となっており、現在平年よりやや多めの出荷となっているが、今後はこれまで前倒し出荷であったことに加え、終盤期ということもあり、平年並みの出荷の見込み。 ・北海道産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、平年並みに推移する見込み。 |
| | | 123. 11 | 147 (119%) | 152 (123%) | 122 (99%) | 123. 11 | |

注： 1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を150%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5年平均の数値である。
5 主産地は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年見込(さといもは前年実績)、近畿は前年実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価額を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

| 種 類 | | 9 月の価格情報 | | | | 1 0 月 | | 生育及び価格の10月下旬までの見通し |
|-------------------------|---|---------------------------------------|----------------------------|---------------|---------------|---------------------------------------|---|---|
| | | (参考) 保証基準額の 算定の基 となる平均 価格 | 指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額 | | | (参考) 保証基準額の 算定の基 となる平均 価格 | | |
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | | |
| い も 類 |  | 242.66 | 348 (143%) | 338 (139%) | 316 (130%) | 220.97 | ・埼玉産は、9月中旬までの天候不順の影響は特段見られず、病害もなく生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、これまでの降雨の影響で掘り取り作業が遅れたものの、天候に恵まれ収穫作業は順調に行われていることから、今後も引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・埼玉産の出荷が平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年よりやや多めの出荷と見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。 | |
| | | 220.11 | 404 (184%) | 348 (158%) | 322 (146%) | 217.56 | | |
| |  | 101.61 | 111 (109%) | 109 (107%) | 108 (106%) | 96.99 | | ・北海道産は、天候に恵まれ収穫作業は順調に行われていることから、現在平年並みの出荷となっているが、生育が順調だったことから豊作傾向となっており、今後は平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・北海道産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。 |
| | | 101.61 | 116 (114%) | 109 (107%) | 102 (100%) | 96.99 | | |

注：1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を150%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。
5 主産地は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年見込(さといもは前年実績)、近畿は前年実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価額を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、8月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、4,240gで平年比98%、購入金額は、1,998円で同115%となった。

また、小売物価統計によると、9月のキャベツの小売価格は、221円で過去5カ年平均比140%、トマトは、781円で同114%、だいこんは、204円で同110%、ばれいしょは、343円で同106%となり、各品目で過去5カ年を上回った。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額（1人当たりの購入数量と購入金額）

| 年 | 過去5カ年平均 | | 平成26年 | | 平成27年 | | | |
|-----|----------|----------|----------|----------|----------|-----|----------|-----|
| | 購入数量 (g) | 購入金額 (円) | 購入数量 (g) | 購入金額 (円) | 購入数量 (g) | 平年比 | 購入金額 (円) | 平年比 |
| 1月 | 4,272 | 1,640 | 4,379 | 1,775 | 4,374 | 102 | 1,755 | 107 |
| 2月 | 4,485 | 1,666 | 4,646 | 1,742 | 4,609 | 103 | 1,761 | 106 |
| 3月 | 4,868 | 1,811 | 4,958 | 1,878 | 4,921 | 101 | 1,939 | 107 |
| 4月 | 4,765 | 1,855 | 4,871 | 1,887 | 4,693 | 98 | 2,070 | 112 |
| 5月 | 5,089 | 1,917 | 5,146 | 1,993 | 4,968 | 98 | 2,257 | 118 |
| 6月 | 5,056 | 1,902 | 4,998 | 1,976 | 5,044 | 100 | 2,157 | 113 |
| 7月 | 4,402 | 1,737 | 4,542 | 1,770 | 4,353 | 99 | 1,966 | 113 |
| 8月 | 4,315 | 1,731 | 4,275 | 1,846 | 4,240 | 98 | 1,998 | 115 |
| 9月 | 4,688 | 1,844 | 4,745 | 2,035 | | | | |
| 10月 | 5,191 | 1,902 | 5,455 | 1,973 | | | | |
| 11月 | 4,990 | 1,700 | 5,291 | 1,704 | | | | |
| 12月 | 5,146 | 1,927 | 5,233 | 1,977 | | | | |

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」
注：過去5カ年平均は、平成22～26年の平均。

主要野菜の小売価格(東京都区部)

| | キャベツ | | トマト | | だいこん | | ばれいしょ | |
|-----|-------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|
| | 平成27年 | 平年比 (%) | 平成27年 | 平年比 (%) | 平成27年 | 平年比 (%) | 平成27年 | 平年比 (%) |
| 1月 | 229 | 108 | 663 | 99 | 154 | 102 | 313 | 99 |
| 2月 | 202 | 91 | 696 | 107 | 170 | 100 | 316 | 100 |
| 3月 | 169 | 82 | 766 | 109 | 157 | 91 | 324 | 102 |
| 4月 | 255 | 105 | 747 | 106 | 192 | 110 | 358 | 106 |
| 5月 | 273 | 168 | 702 | 114 | 212 | 138 | 409 | 114 |
| 6月 | 188 | 137 | 648 | 116 | 160 | 107 | 443 | 126 |
| 7月 | 167 | 104 | 608 | 105 | 188 | 116 | 474 | 144 |
| 8月 | 188 | 136 | 593 | 102 | 199 | 122 | 437 | 134 |
| 9月 | 221 | 140 | 781 | 114 | 204 | 110 | 343 | 106 |
| 10月 | | | | | | | | |
| 11月 | | | | | | | | |
| 12月 | | | | | | | | |

資料：総務省「小売物価統計調査報告」
注：1 過去5カ年平均は、平成22～26年の平均。
2 平成27年9月の値は、9月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

貿易統計によると、8月の野菜の輸入量は、生鮮野菜は、前年同月比95%の5万4千トン、加工野菜は同100%の14万1千トン、野菜全体は、同99%の19万5千トンとなった。このうち、中国産野菜合計は同96%の10万トンとなった。

生鮮野菜は、前年を下回った一方で、加工野菜が前年並みとなり、野菜全体では前年をわずかに下回った。

野菜の輸入数量

(単位：トン、%)

| 区分 | 平成25年 | | 平成26年 | | 平成27年1月～8月 | | 平成27年8月 | |
|-----------|-----------|-----|-----------|-----|------------|-------|---------|-------|
| | | 前年比 | | 前年比 | | 前年同期比 | | 前年同月比 |
| 生鮮野菜 | 854,420 | 90 | 884,735 | 104 | 590,571 | 92 | 53,975 | 95 |
| 加工野菜 | 1,854,679 | 97 | 1,785,487 | 96 | 1,180,998 | 96 | 141,005 | 100 |
| 野菜合計 | 2,709,100 | 95 | 2,670,222 | 99 | 1,771,569 | 95 | 194,979 | 99 |
| うち中国産野菜合計 | 1,416,557 | 97 | 1,409,604 | 100 | 891,552 | 95 | 104,414 | 96 |
| 中国産シェア | 52 | | 53 | | 50 | | 54 | |

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」)

主な野菜の輸入数量

(単位：トン、%)

| 品目 | 輸入先 | 平成26年8月(A) | 平成27年8月(B) | (B)/(A) |
|------|---------|------------|------------|---------|
| | | | | |
| たまねぎ | 合計 | 24,006 | 21,711 | 90 |
| | 中国 | 22,437 | 21,026 | 94 |
| | タスマニア | 166 | 393 | 237 |
| にんじん | 合計 | 5,505 | 5,695 | 103 |
| | 中国 | 5,422 | 5,579 | 103 |
| | オーストラリア | 11 | 80 | 713 |
| ねぎ | 合計 | 4,243 | 4,268 | 101 |
| | 中国 | 4,241 | 4,266 | 101 |

資料：農林水産省「植物防疫統計」
注1：平成27年8月は速報値。
注2：輸入数量は、検査数量である。
注3：冷凍を除く。

4 トピック ― 農業経営体の構造変化について ―

農業構造動態調査は、農業を取り巻く諸情勢が著しく変化する中で、5年ごとに実施する農林業センサス実施年以外の毎年の農業構造の実態及びその変化を明らかにするために行われている。今回は、平成26年「農業構造動態調査」からみた農業経営体の構造変化について紹介する。

農業経営体別に見てみると、平成26年は、25年と比較して4万2900経営体減の147万1200経営体（前年比97.2%）となった。内訳は、家族労働を中心とした家族経営体が143万9000経営体（同97.1%）、農業法人などの組織経営体が3万2100経営体（同101.3%）となっている。家族経営体は引き続き減少傾向で推移しているものの、組織経営体は微増傾向が続いており、その中でも、法人化した経営体（1万8900経営体（同103.8%））の増加率が高く、法人化の進展がうかがわれる。

作物別に販売農家数の推移を見ると、農業全体では、25年と比較して26年は1,298.7千戸（前年比97.0%）となっている。このうち、野菜の販売農家は118.7千戸（同97.6%）となっており（露地野菜：74千戸、施設野菜：44.7千戸）、専業農家の割合が高い野菜販売農家であっても、農家の高齢化や担い手の減少の影響を受けていることが分かる。

このように、野菜農家も構造変化が進んでおり、今後とも消費者に安定的に野菜を供給していくためには、野菜農家においても、機械化や担い手への農地の集約化を通じた収益性の向上、法人化をさらに進めて、野菜農業が農業者にとって魅力あるセクターとしていくことが、ますます重要になってくると思われる。

農業経営体の推移(全国)

| 年 | 組織経営体 (千経営体) | 家族経営体 (千経営体) | 組織経営体のうち法人経営体 (千経営体) | 合計 (千経営体) |
|------|--------------|--------------|----------------------|-----------|
| 平成22 | 31.0 | 1,648 | 17.1 | 1,679 |
| 23 | 31.5 | 1,586 | 17.8 | 1,618 |
| 24 | 31.2 | 1,533 | 17.8 | 1,564 |
| 25 | 31.7 | 1,482 | 18.2 | 1,514 |
| 26 | 32.1 | 1,439 | 18.9 | 1,471 |

作物別販売農家数の推移(稲作を除く)

| 作物 | 平成22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
|------|------|------|------|-----|-----|
| 施設野菜 | 100% | 102% | 101% | 99% | 97% |
| 露地野菜 | 100% | 101% | 99% | 97% | 96% |
| 肉用牛 | 100% | 98% | 96% | 94% | 93% |
| 果樹類 | 100% | 99% | 97% | 95% | 94% |
| 酪農 | 100% | 98% | 96% | 94% | 93% |
| 畑作 | 100% | 96% | 94% | 92% | 91% |

販売農家別専業業別農家数の割合(26年)

| 作物 | 専業農家 (%) | 兼業農家 (%) |
|------|----------|----------|
| 稲作 | 19% | 81% |
| 畑作 | 43% | 57% |
| 露地野菜 | 41% | 59% |
| 施設野菜 | 51% | 49% |
| 果樹類 | 40% | 60% |
| 酪農 | 65% | 35% |
| 肉用牛 | 49% | 51% |

資料：農林水産省「平成26年 農業構造動態調査」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はページ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。
※無断転載禁ず ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。